

色鮮やかな昆虫の世界「カミキリムシ」

庭や公園の樹木などを食べるため、嫌われてしまうことが多いですが、カミキリムシが悪い生き物だと決めつけるのは切ないと思うナチュラルリストも少なくないでしょう。

植物と深い繋がりを持つ多様なカミキリムシの世界には、ユニークで美しい種類が多く、野外で見かけると誰の記憶にも残るほど印象的です。

今回は緑と夏の友、あきる野の魅力的なカミキリムシを紹介します。



キボシカミキリ

ルリボシカミキリ



普通種とは言え、信じられないくらい美しいルリ色、サワグルミやブナ、カエデの仲間などを寄主(生物の寄生で、寄生される側の動物または植物)とします。

シラホシカミキリ



キイロトラカミキリ



あきる野でよく見かけるトラカミキリの仲間です。クリの花によく集まり、広葉樹多種を寄主とします。

ヤツメカミキリ



やや数が少なく、フレッシュグリーン色で爽やかなカミキリムシです。ウメやサクラの仲間を寄主とします。

チャイロホソヒラタ カミキリ



オオヨツスジハナ カミキリ



カミキリよ、また会おうね！（表面の関連記事）

老木や弱った木は、カミキリムシが侵入しやすいため、数が増えやすくなります。そして、それらの幼虫を好むキツツキの仲間が木をたたいて採餌します。キツツキがいることにより、木に洞が作られます。その洞が大きくなった時は、より大きな生き物である貴重なフクロウの仲間やムササビ、ホンドテンなど森に欠かせない存在が住み着くことができます。

立ち枯れ木は、害虫の塊で不要だと思う人もいますが、健全で多様な森には、カミキリムシを初め、多くの昆虫や立ち枯れ木が必要不可欠となります。



われわれは、ドクガです。よく知って身を守れよ、人間

2020年は、いろいろな出来事があり、皆さんの記憶に残りそうですが、自然界でも人間にとってあまり良くない状況です。度重なる異常気象の影響なのか、今年の自然にも異変が感じられます。

6月号では、マダニの急増化に伴う危険を示したばかりですが、実は他にも危険な生き物が多い年になっています。暖冬の影響か、その後の多雨の影響か、5月からはどこに行ってもよく見かけた「ガ」の数が気になりました。特に、ヒラヒラと無数に飛び回る白いガがいました。それはキアシドクガというドクガの仲間のようなものでした。ミズキの木を食べつくす場所も確認しました。ドクガとは言え毒性はありませんが、キアシドクガがこんなに多くなるのを見たことはありませんでした。もしかしたらドクガの仲間が全体的に多い年になるのではないかと、少し不安でした。そして、6月の梅雨の季節に入り、サクラの木やイタドリなどの植物でドクガやマイマイガ(毒がある方の種類)が数多く出始め、恐れたとおり、7月もドクガの仲間が増え続けました。

あきる野では、これまでに少なくとも10種類のドクガを確認しました。毒針の有無や成虫／幼虫の段階での毒の有無など種類によって異なりますが、毛虫やガを識別するのは極めて困難であるため、とにかく野外ではこれらに触れないことが重要です。マダニと同様、生い茂っているところに入らないことや肌を露出しない服を着るのは特に重要です。付着した場合は、毒針が飛散しないように、ガムテープなどで退治しましょう。

夏は野外活動が増える季節ですが、自然は人間の遊び場ではなく、地球が人間に提供してくれている恵です。人間は、これを理解した上で、自然を楽しむ必要があるのではないかと思います。



(上) 電車内(市内)で見かけたチャドクガ(毒性)。市街地の公園やマンションなどで見ることもよくあります。

(左上) イタドリの葉っぱを食べて成長するドクガの幼虫。葉っぱの裏にすることが多く、たくさんいても人間の目線では見えない危険な生き物です。



森っこサンちゃん